

# 発掘調査と並行した資料普及活動に関する一考察

田 中 宗 博

- |                     |                        |
|---------------------|------------------------|
| 1. はじめに             | 4. 発掘調査に並行した普及活動の方法・技術 |
| 2. 2年間の実践           | 5. おわりに                |
| 3. 発掘調査に並行した普及活動の意義 |                        |

## 1. はじめに

考古教材研究会（以下教材研）では、一昨年より発掘調査現場の近隣の学校等に最新の発掘調査の情報を公開する取り組みを続けている。本年度も県内各地の発掘調査の情報をパネル展として近隣の学校等に展示しているところである。

本年度は当センターにも「資料普及課」が新設され、県内各地の小中学校等にいわゆる「出前授業」として土器づくり教室等を実施している。近隣の埋蔵文化財センター（事業団）等でもこうした普及活動に積極的に取り組んでいることは周知の通りであり<sup>1)</sup>、こうした活動が今後ますます埋蔵文化財行政の中でも重要な事業の1つとなるものと考えられる。

本稿では、こうした資料普及活動の取り組みの中で、特に発掘調査の実施と並行する形でどのような資料普及活動ができるのか、筆者が関わった教材研での実践を踏まえて考察していきたいと考える。

## 2. 2年間の実践

一昨年から2年間にわたって実践してきた教材研の取り組みの概要について言及していくことにする。

平成11年度から教材研では発掘調査を実施する市町村の中で主に当該市町村、同一地区内にある小中学校等に発掘調査で撮影した写真等をパネルにして展示する取り組みを実施しているところである。

教材研では平成11年度以前に『先生のための考古資料集』という冊子を刊行してきた経緯がある<sup>2)</sup>。11年度当時、この活動に参加してきたメンバーも在籍していたが、この年の活動として「生の発掘現場の情報を地域に伝える」という方針に固まり、最新の発掘情報を伝えるパネル展を実施することになった。こうして、発掘調査が始まる現場から順次、このパネル展の取り組みが始まった。

ところで、発掘調査の現場を学校・各種団体が訪問することは珍しいことではないが、平成11、12年度に



白根御勅使中学校での展示



白根百田小学校での展示

についても多くの学校・団体が遺跡見学を訪れている<sup>3)</sup>。パネル展を設置させていただいた学校からも多くの子ども達が見学を訪れた。市町村によっては、夏休み中に児童生徒を対象とした遺跡見学会を実施していただいたところもあった。また、発掘調査期間中に数回見学・発掘体験学習を訪れる学校もあり、教育現場においても積極的に埋蔵文化財を活用しようとしている様子がうかがえた。パネル展の反響については、白根御勅使中学校の協力で各学年1クラスを対象にアンケートを実施したので、ここに紹介に紹介しておく。パネル展の実施を知っている生徒が全体の6割、実際にその内容を見ている生徒が5割強であった。「何が書いてあるのかわからない」「はっきりいって、つまらない」等の意見が多く、全体として興味・関心を示している生徒の数は極めて少なかった。その一方で、少数ではあるが「先祖が使った土器かもしれないから実際の土器を見たい」「昔の人の考えや生活状況を知りたい」「いくつか学校に展示できないのでしょうか？」等、積極的な意見があったのも確かである。しかしながら、全体としては写真や文字だけでは情報伝達に限界があるということを痛感させられる結果となった。



八田小学校発掘体験学習（白根町・百々遺跡）

### 3. 発掘調査と並行して資料普及活動をすることの意義

本来は、発掘調査事業と並行して普及活動を行ってよいかどうか、という話を先にすべきかもしれない。そこで、この取り組みを実施していく上で考えられる問題や、並行して実施することの意義等について考察していくことにする。

まず、筆者が担当した発掘調査現場を取り仕切っている工事関係者を対象に実施した、資料普及活動に関するアンケートの集計結果を参考に考えていきたい。回答していただいた工事関係者は21名である。発掘調査と並行して普及活動を実施することについて「よいことだ」と回答していただいた方が9割以上を占めた。発掘現場に見学者や発掘体験学習等の目的で児童生徒が訪れることについては「よいことだ」という回答が全員であった。学校教育・生涯学習等に埋蔵文化財を取り入れていくことについても「取り入れてよいのでは」とする回答が9割以上であった。これらの理由について「何事も過程が大事だ（発掘調査についても）」「小学校で説明する時間をとってはどうか」「発掘の必要性を説明していくのに大変貴重だ」等、積極的な意見が多く見られた。

その一方で、「開発等に伴う発掘調査についてどう考えるか」という質問については、作業の早期終了や調査範囲の縮小等、工事を進めるために発掘調査を早く終わってほしいと考える関係者が多数見られた。こうした意見はある程度予測がつくことであるが、中には「開発するからといって過去の事（歴史）を見つめないのもどうかと思う。これからはそういうことをうまくやって（発掘調査と開発が）共存していくべきではないか」「文化の発展のためには必要性が高く、広く周知し、記録を残すべきだ」等、積極的理解をいただく回答もあ

百々日々新聞 2000年10月24日 火曜日

1700年前の土器!!

百々日々新聞

No.9




百々遺跡③の第1区の調査は、7月末に終わっているのですが、この場所で、ちょっと変わった土器が出てきました。それは、おとしの調査で掘ったみぞ(左写真の細長い部分)の底から出てきました。百々遺跡の時代は平安時代(今から約1000年前)ですが、この土器はさらに古い古墳時代前期(今から約1700年前)のもので、この土器は6字状口縁台付壺(えすじょうこうえんだいづきがめ)といって、東海地方に多く見られる土器です。なぜ、このようなところに出てきたのか分かりませんが、平安時代よりもさらに古い時代に、この白根町のあたりに人が生活していたのかも知れませんね。

百々遺跡を紹介するパネル

た。また、「たいして重要なものが出なかった遺跡などが放りなげられたままになっていたとしたら情けない」など、埋蔵文化財行政に警鐘を鳴らす貴重な意見もいただいている。

総じて積極的・建設的な意見が数多く見られ、資料普及活動の重要性を改めて認識させられる結果となった。また、「工事関係者」という立場上の意見と「一般の人々」としての意見の両方の角度から読みとれる内容でもあった。

アンケートの概要は以上であるが、小規模のアンケートにも関わらず多くの意見をいただき、今後の取り組みに大いに活かしていかなければならないと痛感する結果となった。

こうした資料を踏まえて、発掘調査と並行した資料普及活動の問題点等について、以下に挙げる点について考えていきたい。

〔発掘調査と並行した資料普及活動を実施する際、考えられる問題点〕

- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| ①並行した資料普及活動の是非 | ②並行した資料普及活動の必要性 |
| ③並行した資料普及活動の担当 | ④資料普及活動を実施する対象  |

①に関して一番問題になることは発掘調査の原因者との兼ね合いであろう。原因者が負担する発掘調査費用に、こうした資料普及活動の費用を盛り込む根拠が果たしてあるのかということである。周知のとおり、文化財保護法は「文化財を保存し、且つ、その活用を図り、もつて国民の文化的向上を資するとともに、世界文化の進歩に貢献することを目的」（法第1条）とし、「文化財がわが国の歴史、文化等の正しい理解のため欠くことのできないものであり、且つ、将来の文化の向上発展の基礎をなすものであることを認識し、その保存が適切に行われるように」（法第3条）と明言している。各都道府県の教育委員会教育長にあてられた文化庁次長通知の中でも埋蔵文化財の資料活用について言及している<sup>4)</sup>。これらを踏まえると発掘調査に資料普及活動が含まれると解釈できるのではないだろうか。

②の発掘調査に並行して資料普及活動をする必要があるのか、ということはもちろん議論を重ねていかなければならない。発掘調査恒例の現地見学会や、年度末に実施される遺跡展等の取り組みがあるのだから、わざわざ調査期間中の多忙の中で資料普及活動に取り組む必要性はないとも考えられる。しかし、発掘調査を間近に見ることが容易ではない一般の人々にとって、今まさに出土した土器と展示会で見る土器とは見え方が全く違うものであり、実際の発掘調査を間近に見れば、自分たちの住んでいる地域に太古の昔から人間が生活していたことを実感できるのではないだろうか。このことについては、前述した学校・工事関係者に協力をいただいたアンケートの中からも読みとることができる。

③について、発掘調査に並行する資料普及活動を誰が担当するか、ということも非常に重要である。なぜならば、担当する職員数によって活動の幅が大きく左右されるからである。パネル展の取り組みは、



八田小学校の見学会（白根町・百々遺跡）



奥野田小学校の遺跡訪問（塩山市・大木戸遺跡）



教材研に所属する発掘調査の担当者が実施してきたが、学校向けのアンケート結果からも分かるように、少数の担当者による取り組みでは効果的な資料普及活動が難しいことを実感した。

④については、活動をどこまで広げるか、そして誰を対象にするかということである。教材研で実施してきたパネル展は各発掘調査現場で多くても2校、そして各市町村教育委員会の協力を得て役場・資料館等に限定して展示する形式をとった。対象は、主に児童生徒・地域住民を対象とするものであった。これ以上活動範囲を広げると発掘調査そのものに支障が出てくることが予想され、ここまで止まった。

筆者も発掘調査と同時進行で行う資料普及活動の難しさを実感したところであるが、少なくとも上記の問題に関しては検討を重ね、これらの活動に活かし実行していくべきことではないだろうか。



百々遺跡を紹介するパネル（中学生以上向け）

#### 4. 発掘調査に平行した普及活動の方法・技術

発掘調査に平行してその発掘調査の成果をリアルタイムに普及していく方法・技術についても、研究の余地が大いにあると思われる。

教材研で取り組んできたパネルは現場の写真を加工した資料であるが、紙で伝えられることには限界がある。昨年度の取り組みの反省に、「実際にその発掘調査で出土した遺物等を学校等に持ち出して即席の遺跡展が出されればよかった」という反省もあった。残念ながら、本年度の取り組みにもこの反省は活かせられなかった。

発掘調査の中で、効果的に資料普及活動を進めていくにはどのような方法・技術が求められるのか、当センター職員の協力を得て実施した資料普及活動に関するアンケート結果から探っていくことにする。このアンケートには21名の職員から回答をいただいた。まず、「本年度、見学会・発掘体験学習等を実施したか」という質問に対して、「実施した」という回答が7割強、「過去に実施した」という回答を含めると9割以上にのぼった。理由については、「学校や地域等から要請」が多かったが、「地元をはじめ、発掘調査への理解を広げることが今後につながるから」「発掘調査の成果を地域に還元すべきだ」とする積極的理由も見られた。また「遺跡周辺の昔の風景等を地域の方々に尋ねたい」など、見学会等を「情報収集の場」と考える回答もあった。実施しなかった理由については、「担当する仕事の性格上できなかった」や、「本来の仕事がおろそかになるから」という回答があった。また「めばしい発見がなかったから」という回答もあった。担当する遺跡に関する資料等に関しては、8割強の職員が発掘調査期間中に作成・配布したと回答している。理由については「発掘調査の成果を広く公開することで遺跡を身近に感じてもらう」、「遺跡に対する理解を深めてもらいたい」とする回答が多数を占めた。特に「地元の人々に知ってもらいたい」という回答が多かった。また、「資料を作成した方が分かり易いから」「限られた時間の中でできるだけ多くの情報を伝達できるから」や、「仕事に対しての協力や、支援、賛同を得る為に最善の策と思う」とい



百々遺跡を紹介するパネル（小学生以上向け）

う回答もあった。理由はともあれ、資料普及活動を発掘調査の仕事の一部であると認識している職員が大部分であった。次に、資料普及に取り組む上で、どのようなテクニックが必要なのか同アンケートから考えていきたい。「資料を作る際に留意した点等」については、「一般の方々にわかりやすい文章を心掛ける」「できるだけわかりやすく、又興味を持てるような内容づくりにする」「図（写真）を多くして、それらを見て理解できる形に」するという様な回答がほとんどであった。中には、「ビジュアル中心で、鉄製品なら復元して使用している様子の絵を挿入する」「シリーズ化して集める楽しさを持たせる」「（難解な文字に）ふりがなをふる」「文字を大きめにする」など、具体的な方法について言及するものもあった。また、「所内での根回し→起案はしっかりとすべき」という、手続的な部分に触れる回答もあった。また、そのほかの実践や意見として以下のような回答もいただいている。

- ・ことぶき勤学院に講師としていって、その地域の土器をみせた。高校の特別授業にいった。
- ・注目されている遺跡の見学会。ブロック会議の遺跡見学会。夏休みの宿題での発掘体験（個人受け入れ）。近所の子どもが道を通った時ちょっと掘らせてあげた。原因者への説明。土地所有者や関係者への説明。通行人への説明。
- ・インターネットでの紹介。
- ・遺跡の付近に「掲示板」を作って置くようにしています。「遺跡ニュース」を貼ったり、お知らせを貼ったり、通りがかった人々に見ていただくようにしています。散歩中の人などが立ち止まって読んでくれるので効果は大きいです。
- ・最近つくづく思うのですが、調査終了近く、或いは終了したその後でよいと思うが、遺跡近くの場所でスライド映写会等を実施してみたらいいのではないかと考えている。遺跡調査発表会では短すぎるし、現地説明会ではスライドを見ながら調査の進行状況がわからない。

集計結果の概要は以上であるが、発掘調査の仕事の1つとして子どもや一般の人々向けにわかりやすい内容で遺跡の情報を伝えていこうと考えてる職員が大部分であることがわかる。具体的な実践の内容まで踏み込んだアンケートはできなかったが、言葉の表現や写真・図等の併用などに注意して取り組んでいるという回答がほとんどであった。1つ残念なことは、出土した遺物等を利用した取り組みがほとんどなかったということである。教材研の活動もこの件に関しては同じで、今後、発掘調査で出土した遺物（レプリカ）等をそのまま利用するような資料普及活動が調査と並行して実践できるように研究を推し進めていくべきであろう。

## 5. おわりに

遺跡の生の情報を広く伝えるために必要な表現技術（ものの見せ方）は無限にあるように思われる。その一方で、発掘調査と並行するために生ずる時間的制約や、教材研で実践したパネル展の反響のように表現方法の問題等も浮き彫りになった。発掘調査終了後に明らかになる事実も数知れず、終了後の資料普及活動も一層重要な仕事になる。しかしながら、発掘調査期間中でなければ分からないことがあるのも、また事実である。

調査期間中でしかできない資料普及活動の可能性に焦点をあてて考察してきたが、筆者の実践・各方面に向けたアンケートの結果を踏まえると発掘期間中の普及活動はまだ発展途上であり、今後この分野に関してまとまった研究・実践がなされれば、今まで以上に発掘調査で得られた地域の財産を広く共有し、より多くの人々から埋蔵文化財に対する深い理解を得られるのではないだろうか。

最後に、本稿を執筆するにあたりアンケートにご協力いただいた、中部横断自動車道在家塚高架橋北工事りんかい・坂田建設共同企業体をはじめ工事関係者各位、白根御勅使中学校、当センター職員の方々に深く感謝を申し上げる次第である。

(註・参考文献)

- 1) 筆者が平成10年度に資料調査として訪れた群馬県埋蔵文化財調査事業団でも、平成8年にオープンした「発掘情報館」を拠点に、精力的に資料普及活動を実施している。また、群馬県内の学校もこの情報館を積極的に活用しており、学校教育の中に埋蔵文化財がかなり浸透している印象を受けた。  
『遺跡に学ぶ』(第9.10.11号) 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1998
- 2) 『先生のための考古資料集』(第1集) 山梨県埋蔵文化財センター考古教材研究会 1992  
第1集は遺跡の用語や発掘調査の方法、時代の説明等をわかりやすくまとめたものである。  
『先生のための考古資料集』(第2集) 山梨県埋蔵文化財センター考古教材研究会 1993  
第2集は分布調査から報告書刊行まで発掘調査の流れを丁寧に解説し、その成果等をわかりやすくまとめたものである。  
『先生のための考古資料集』(第3集) 山梨県埋蔵文化財センター考古教材研究会 1994  
第3集は縄文土器の編年についての解説が中心で、発掘調査に携わった職員の感想や土器づくり入門、授業に使うための学習指導案等を掲載している。  
『先生のための考古資料集』(第4集) 山梨県埋蔵文化財センター考古教材研究会 1995  
第4集は県内各地の遺跡をわかりやすく解説してある。  
『先生のための考古資料集』(第5集) 山梨県埋蔵文化財センター考古教材研究会 1996  
第5集は歴史の教科書に沿ったかたちで各時代ごとの用語について一般的説明と本県における遺構・遺物の実際、遺跡位置などが示してある。
- 3) 筆者が平成11、12年度の発掘調査担当者を対象に実施した聞き取り調査の集計結果を参考資料として掲載しておく。

平成11年度

平成12年度

大木戸遺跡(塩山市)	赤尾保育園(職員・園児全員)	久保田・ 道々茅木遺跡(甲府市)	現地見学会(2回)
	塩山南小学校(6年生)		増穂小学校職員
	塩山中学校(1年生40名)		増穂中学生徒数名
	塩山中学校(3年生20名)		御坂東小学校(3・4年生)
	奥野田小学校(職員・児童全員)		春日居中学校発掘体験学習(50名+引率教諭)
	大和中学校(3年生3名)		御坂中学校発掘体験学習(4名+引率教諭)
道々茅木遺跡(甲府市)	山梨県立ろう学校(中学校3年生5名)		豊富村の小学生(8名+引率教諭)
	甲府東中学校	百々遺跡④(白根町)	甲府東中学校(15名)
横町遺跡(春日居町)	春日居中学校		甲府市レインボー大学(30名)
	駿台甲府付属中学校		英和中学校職場体験学習(2名)
百々遺跡①(白根町)	春日居中学校(2回訪問)		中巨摩郡地域学習サークル白根・八田・芦安ブロック
	八田小学校(5年生)		山梨ことぶき学院郷土研究クラブ
	百田小学校発掘体験学習		山梨学芸懇話会
百々遺跡②(白根町)	中巨摩郡内小中学校社会科研究会	百々遺跡⑤(白根町)	山梨県広聴広報課テレビ取材
	白根町教育委員会「夏休み子ども遺跡発掘教室」		建設省広聴取材
	白根町教育委員会「白根町ふるさと教室」		八田小学校発掘体験学習(5年生)
	白根町教育厚生常任委員会所管事務調査		山梨学芸懇話会
	白根東小学校社会科見学(3年生)		英和中学校職場体験学習(2名)
	駿台中学校発掘体験学習	原田町農業高校前(下原) 遺跡(長坂町)	八田小学校発掘体験学習(5年生)
	八田小学校発掘体験学習(5年生)		甲陵高校(生徒・教員)
	中巨摩郡文化担当者会		峡北高校(生徒・教員)
	白根東小学校発掘体験学習		長坂町教育委員会文化財保護審議員見学
	百田小学校発掘体験学習		長坂町郷土史研究会
百々遺跡③(白根町)	東京電力山梨支社櫛形支店		
	芦安中学校発掘体験学習(職員・全校生徒)		
	中巨摩郡内小中学校社会科研究会		
	白根町教育委員会「夏休み子ども遺跡発掘教室」		
	白根東小学校社会科見学(3年生)		
	八田小学校発掘体験学習(5年生)		
	白根東小学校社会科見学		
	百田小学校発掘体験学習		
中田遺跡(八田村)	八田村教育委員会(2回目)		
横堀遺跡(白根町)	百田小学校(?)遺跡探検隊		
	白根巨摩中学校地歴クラブ		

- 4) 「埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化について」[昭和56年7月24日庁保記第17号各都道府県教育委員会教育長あて文化庁次長通知][昭和60年12月20日庁保記第102号各都道府県教育委員会教育長あて文化庁次長通知]